

長野の林業

No.
393
2024.5.10

特集

開かれた里山
中部森林管理局・長野県林務部の取組

トピックス

- ・長野県木材協同組合連合会「青壮年部会」の創設
- ・人事異動

コラム

- ・林業士リレーコラム

県森連だより



松川町およりの森
【松川町】



ふたえ里山整備協議会
【大町市】



特定非営利活動法人やまぼうし自然学校
【上田市】



湯田中地区里山整備利用推進協議会
【山ノ内町】

～取組事例集に掲載した「開かれた里山」の事例～

長野県ふるさとの森林づくり条例に基づき認定された里山整備利用地域のうち16地域において、多くの県民や県外から長野県を訪れる方が気軽に利用できる「開かれた里山」づくりに向けた取組が行われています。

県では、「開かれた里山」の整備等に取り組む地域の皆様の参考となるよう「取組事例集」や「安全管理マニュアル」を作成しました。今後は、事例集やマニュアルの周知等を進め、更に多くの地域で様々な活動が行われるよう、支援していきます。



長野の林業
フルカラー版

令和6年度

中部森林管理局の取組について



中部森林管理局長
もりやま かつひこ
森谷 克彦

この4月より中部森林管理局長を仰せつかっております。

地域の森林・林業・木材産業関係者の皆様方には、国有林の管理経営に特段のご支援、ご理解を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昭和から平成、令和へと時代が移り変わり、森林・林業・木材産業を巡る情勢は、中部地域においても、温暖化防止対策や生物多様性の保全など地球環境の保全に加え、デジタル化など技術の進化の波の中で大きく変化しております。

国有林でも、治山事業の実施による国土強靱化はもとより、森林の有する様々な機能を最大限かつ有効に発揮させるために、新技術

の活用や民有林との連携などに取組んでまいりました。

また、中部森林管理局の管内は、山岳、高山地域を多く抱えることから、地域振興の観点からも、森林サービス産業など木材以外の森林資源の活用に対する期待は大きいと感じております。

これらも踏まえ、本年度の取組として、国土の保全、生物多様性の保全、森林空間の利用、そして木材の安定供給など国民の森林としての管理経営を柱として、引き続き民有林とも一層の連携を図りながら事業を進めることとしておりますので、今年度もよろしくお願いたします。

長野県内の国有林は、県土面積136万haの27%（37万ha）を占めています。健全な森林の育成や地球温暖化防止のため、間伐等の森林整備を推進しています。

令和6年度の取組のポイント

一、公益重視の管理経営の一層の推進

◇多様な森林への誘導

- ・林齢や樹種の異なる林分が交互に配置された森林や、針葉樹と広葉樹が混ざり合った森林への誘導
- ・イヌワシの生息地周辺において人工林の伐採・再造林により餌となるウサギやネズミ等の増加を促進し、狩場を創出
- ・世界的にも貴重な天然ヒノキ等の森林を守り育てる「木曾悠久の森」の設定から10年の節目を迎え、これまで進めてきた「復元」の取組等について、シンポジウムの開催等により広く国民に情報を発信

◇安全・安心への貢献

- ・国土強靱化の取組として、激甚化する災害からの被害を防止・最小化するための流木対策、崩壊した林地の復旧を実施
- ・大規模な山地災害発生時には、県や市町村等との合同調査や応援



設定から10年を迎える「木曾悠久の森」(木曾署)



「流木捕捉工」による流木対策(富山署)

要請に応じ森林土木技術者の派遣等を実施
・航空レーザ計測データの活用により災害状況を的確に把握し、県や市町村へ情報を提供

二、森林・林業施策全体の推進への貢献

◇「新しい林業」の実現に向けた効率的な施業の推進

・伐採から再造林、保育に至る全体の収支のプラス転換に向け、国有林のフィールドを活用して低コスト化・省力化の実証

・具体的には、これまで人力で行っていた造林・伐採作業について機械の活用による作業効率化、大苗の導入による下刈回数の削減等の取組を実施し、その成果を林業事業体や行政関係者へ紹介

◇木材の安定供給と需要拡大

・国有林野が有する豊富で多様な森林資源を活かし、国産材の安定供給とともに、伝統的建築物や大型公共建築物など特殊用途へのニーズにも対応

・当局独自のブランド材「^{まるこ}段戸^{だんど} S A N」(ヒノキ)、「信州プレミアムカラマツ」の需要拡大に向け、積極的なPRを実施

・木質バイオマス発電の需要に応

えるため、伐採跡地で発生する枝条や端材(D材)の販売情報をHPで公表するなど資源の有効活用に至る取組を実施



ヒノキのブランド材「段戸S A N」(愛知所)

◇花粉発生源対策

・政府が策定した花粉発生源対策において、令和15年度までの10年間でスギ人工林を約2割削減するとされたことから、当局でも着実な伐採の実行と伐採指定箇所追加を実施

・伐採後は花粉の少ない苗木への植替えを推進

◇シカ被害対策

・事業者への委託による捕獲のほか、猟友会へのわなの貸出しなど地域ぐるみの取組を実施

・林野庁職員が開発した「小林式

誘引捕獲法」(シカの習性を利用した、初心者でも捕獲効率の高い捕獲法)の積極的な普及や、わな見回りの負担を軽減する「捕獲通知システム」の導入等の取組を実施

・防護柵の設置による新植地及び希少な高山植物等へのシカ被害の防止



小林式誘引捕獲法(餌を食べる時に前足を出さずシカの習性を利用)

◇民有林との連携

・当局が実施する研修・現地検討会への市町村職員の参加や、森林管理署の事業現場の見学会など、市町村の要望を踏まえた技術支援の実施

・林業事業体が複数年にわたり樹木を採取できる「樹木採取権」の設定により、森林管理の担い手育成への貢献(今年度は岐阜県飛騨地域での区域指定を進める)

三、「国民の森林」としての管理経営

・森林づくり体験等のニーズに応えるため、NPOや企業等が継続的に国有林野を利用できる「協定締結による国民参加の森林づくり」の推進

・特に魅力的な観光資源として選定された「日本美しの森 お薦め国有林」の情報発信や環境整備等を実施

・「国有林おさんぽMAP」等の情報発信による、国有林を活用した地域の観光振興への寄与

長野県内の主要事業量

			単位	R6	R5
保 育	新 植	ha		277	294
	間 伐	ha		1,852	1,641
収 穫 量	主 伐	千m ³		157	170
	間 伐	千m ³		353	334
林 道	新 設	km		0.6	1.6
	間 工	基		49	40
治 山	山 腹 工	ha		21	20
	地 す べ り 防 止 工	ha		164	228



※令和六年度 中部森林管理局の取組の詳細は、当局ホームページまたは、コードを読み込んでください。

令和6年度 長野県林務部の主要施策の概要

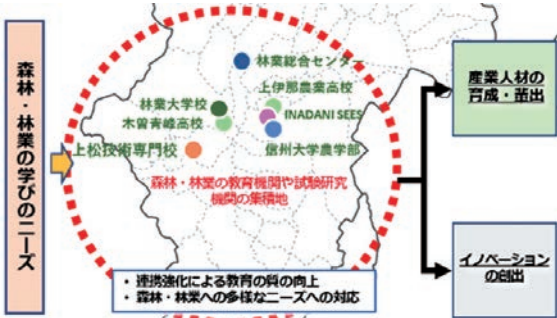
～森林づくりで未来につなぐ 森の恵みとゆたかな暮らし～

令和6年度は、「伐って、使って、植えて、育てる」という森林の持続的なサイクルの推進とともに、2050ゼロカーボンの達成に向け、長野県森林づくり指針の基本方針に基づく施策を進めます。

本年度、重点的に取り組む施策を三つの基本方針に沿ってご説明します。

持続的な木材供給が可能な森林づくり

●主伐・再造林の加速化を図るため、主伐(全木集材)から再造林までの作業を一貫で行うために必要な架線の設置・撤去を支援するとともに、森林所有者の費用負担が大きい主伐後の再造林や初期保育作業等に係る経費を引き続き支援します。



関係機関の連携による質の高い教育の提供と知見を活かした産業支援

●再造林後の森林の確実な更新を図るため、ニホンジカ等の食害から植林後の苗木を守るための活動を支援します。

●木曾谷・伊那谷地域に集積している人材育成機関及び試験研究機関の連携(フォレストバレーの形成)のために運営協議会を新設するとともに、森林・林業を支える人材の育成及びイノベーション創出の推進に向けた人材育成・創出支援プログラムを構築します。

●将来にわたり林業に従事する担い手、特に若年層の担い手の確保を促進するため、他産業からの転職や移住者に加え、新卒者も支援対象とし、取組を一層推進します。

●「信州ウッドコーディネーター」を配置し、多様なニーズに対応するための県内木材加工事業者等による連携体制の構築と、県産材に関する情報発信を強化します。

●身近な生活用品等をプラスチック・金属製品から木質製品へ転換する「ウッドチェンジ」の取組を促進するため、製品開発や販路開拓を支援します。



県産材を活用したサウナ



県産材を活用したベンチ

【主な事業】

- (税)信州の森林づくり事業補助金(人工造林・初期保育の高上げ) (1億6158万円)
- (譲)信州の森林で働く人材確保推進事業(2759万6000円)
- (譲)木曾谷・伊那谷フォレストバレー形成整備事業 (678万3000円)
- (譲)ウッドチェンジ普及促進支援事業 (1200万円)

※(税)森林づくり県民税活用 (譲)森林環境譲与税活用

県民が恩恵を享受できる森林づくり

●森林空間を健康や観光など様々な分野で活用する「森林サービス産業」の創業支援や関連情報の一元的な発信、創業相談体制の整備を進めます。

●多くの県民や県外から訪れる方が気軽に活用できる「開かれた里山」の活動の発展のための計画作成、研修会の開催や先行事例等の情報発信などにより、地域住民による主体的な里山整備と利活用の取組を支援します。

【主な事業】

- (税)開かれた里山の整備・利用推進事業 (7947万2000円)
- (税)森林サービス産業総合対策事業 (3956万1000円)

県民の暮らしを守る森林づくり

●森林資源を有効活用するための林道等の路網整備、山地災害を防止するための治山施設等の整備、森林を健全な姿で次世代に引き継ぐための間伐等の森林整備に取り組みます。

●ツキノワグマ等の野生鳥獣による被害防止のため、緩衝帯整備への積極的な支援を行います。



里山の間伐



住民による森林整備



研修のイメージ

うとともに、ICTを活用したツキノワグマ等の行動監視とニホンジカの効率的な捕獲手法の普及などの総合的な対策に加え、クマのゾーニング管理の導入支援等に取り組みます。

【主な事業】

- 公共事業
- 林道 (8億8967万3000円)
- 治山 (39億6450万3000円)
- 造林 (18億1864万6000円)
- ICT活用した獣害対策 (3740万円)

森林づくり県民税、森林環境譲与税の活用

●森林づくり県民税を活用して、①森林の若返り促進と安全・安心な里山づくり、②森や緑、木のぬくもりに親しむことのできる環境づくり、③森林・林業活動に取り組む多様な人材・事業者への支援、④市町村と連携した森林等に関連する課題の解決に取り組めます。

●森林環境譲与税は、森林経営管理制度などを実施する市町村支援に係る施策や単独の市町村では進めにくい林業の担い手確保施策などを主に活用することとし、市町村の取組状況に応じた支援を行います。

【主な事業】 ※一部事業費再掲

- (税)森林づくり県民税活用事業 (7億6858万4000円)
- (譲)森林環境譲与税活用事業 (2億3220万3000円)



センサーカメラに映ったツキノワグマ





このコーナーでは、
林業士の活動状況など
をリレー形式でお届け
していきます

皆さんこんにちは。今回寄稿させて頂くことになりました長野市鬼無里地区在住の木原と申します。

このコラムは毎回、林業士会の要職に就かれていらっしゃる先輩方のご活躍が紹介されており、林業士とはこうであるべきと感銘を受けるお話がたくさん掲載されているのですが、今回は何故か林業経験の浅い「名ばかり林業士」の私にお声がけを頂きましたので、力不足ではありますが私なりに林業士について思うことを自己紹介も交えながらお話しさせて頂こうと思います。



特殊伐採の様子

私は普段、個人事業主として林業に携わる数名の仲間達と共に支障木や危険木の伐採、緩衝帯整備等の仕事をしつつ、薪や精油の生産・販売をしています。ありがたいことに人間関係には恵まれ、私に伐採技術を指導してくれるだけでなく仕事もくれる親方や、伐採に関する申請や書類の書き方、補助金の受け方等を指導してくれる方達のおかげで、駆け出しで技術力も営業力も無いにも関わらず、今は何とか食い繋いでいけています。そんな余裕のない状況ではあるのですが、林業士の認定証書に書かれた「：地域の森林・林業を核とした山村振興にあたる中核的指導者として：」という一文は常に頭の隅に置いておくよう心がけています。

私の住む鬼無里は中山間地域によくある過疎と高齢化で「持続可能な地域づくり」が困難になってきています。ピーク時には6千人以上いた地区内人口も今では1千人ほどまで減ってしまい、高齢化率は長野市32地区の中でワースト1（75歳以上が43%）となっています。また令和8年度末を以て鬼無里中学校が閉校となることが決まっているので、今後は若い子育て世代の流出も起こり更なる過疎・高齢化で「持続不可能な地域」となってゆくことは明らかです。

認定証書にあった一文を考えたとき鬼無里に於いて現実的なのは山村振興よりも地域貢献で、鬼無里に住み続けたいと願っている方達（特に高齢の方達）の思いに寄り添い、安心・安全に暮らしていることが重要だと感じています。

今の時期は雪が解けてあちこちで畑仕事に精を出している方達を見かけます。夏から秋にかけて収穫の喜びを待ちわびる皆さんが口をそろえて言う困りごとは「鳥獣被害」です。

今年3月に鬼無里の緩衝帯整備の仕事を長野市から請負いました。サルが畑近くのナラヤクリの木に登り電気柵を飛び越えて畑を荒らすそうです。急傾斜なうえ膝上まで埋まってしまうほどの積雪でかなり苦労したのですが、ご近所の方から感謝の言葉を頂けたときはいつもの仕事とはまた違う充実感があつて請けて良かったと感じました。



林業士とは？

地域の森林林業現場で主体的に活動する方を増やし、林業の活性化を図るために昭和48年から長野県が認定しているもので、県下各地で「地域林業の中核的人材」として活躍しています。

プロフィール

木原 貴之 50歳
東京で通信関連の仕事に25年間従事。

令和2年1月に長野市鬼無里地区へ移住し地域おこし協力隊として活動、在任期間中に長野県林業士の認定を受ける。

現在は地域おこし協力隊を退任した林業仲間と一緒に仕事をする傍ら、林業士の目線で鬼無里地区の課題解決の一助となる活動に取り組んでいる。



「開かれた里山」の整備・利用に向けて

県では、里山の整備や利用の促進を通じて、その保全を図るため、地域住民等の皆様が自発的な活動を行う里山を、長野県ふるさとの森林づくり条例に基づき「里山整備利用地域」に認定しており、その数は令和6年4月現在で114地域となっています。

令和5年度からは、多くの県民や県外から長野県を訪れる方が気軽に利用できる里山（開かれた里山）を更に増やすことを目的に、第4期森林づくり県民税を活用して「開かれた里山」の整備等に取り組む地域を支援しています。

支援を受けるためには、里山整備利用地域の活動主体である協議会が、開かれた里山の整備・利用計画書を作成し、地域振興局長の承認を得る必要があります。令和6年4月現在で承認を受けた地域は16地域となっています。（下記「マップ」参照）

承認を受けた地域の多くでは、既に「開かれた里山」づくりに向けた活動が始まっており、それぞれの地域の実情に応じて、地域住民による里山の整備や認知度向上に向けたイベントなどが行われています。

なお、長野県森林づくり指針では、県民が広く親しめる里山の数を令和9年度に50か所とする目標を掲げていますので、県では「開かれた里山」づくりに取り組む地域を更に増やしていくこととしています。

その取組の一環として今後「開かれた里山」づくりに取り組む地域の参考となるよう、県内の先行的な事例（下記「主な事例」参照）をまとめた「取組事例集」や里山を訪れる方が安全に利用するために必要な留意事項等をまとめた「安全管理マニュアル」を作成し、県のホームページで公開しました。

今後は、事例集やマニュアルを活用し取組の周知を進めるとともに、地域の活動に対する支援を行うことで、より多くの「開かれた里山」が県内各地域で形成されるよう取組を進めていきます。

【信州の木活用課】

事例集やマニュアルはこちら↓
(長野県HP)



「取組事例集」に掲載した主な事例

里山フットパスの整備と幅広い活用 (上牧里山づくり：伊那市上牧地区)

- 伊那市上牧の竜東線沿いに広がる段丘林を「上牧里山自然パーク」として整備を行うとともに、パーク内にフットパス(遊歩道)を設置
- フットパスは森林環境学習や地域住民等を対象としたウォーキング、自然観察会などのイベントに活用している。



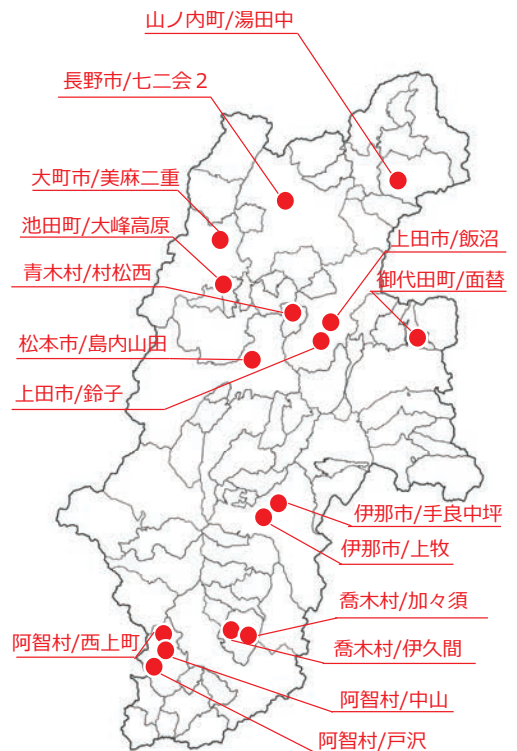
地域ぐるみでの「開かれた里山」拠点づくり (ふたえ里山整備協議会：大田市美麻二重地区)

- 「開かれた里山」の拠点を形成するため、地域の里山を住民等の憩いの場としても活用可能な森林公園として整備
- 整備した里山において、里山体験やワークショップ等のイベントを定期的で開催することで、里山と人とのつながりを深めるなど、県民等が広く親しめる里山づくりを実践している。



「一茶の散歩道」周辺の整備と利用の取組 (湯田中地区里山整備利用推進協議会：山ノ内町湯田中地区)

- 江戸時代の俳人小林一茶ゆかりの遊歩道を「一茶の散歩道」と名付け、危険木の除去などの里山整備を実施
- 「一茶の散歩道」を活用したウォーキングイベント等を実施し、里山を活かした観光地の魅力向上を図っている。



「開かれた里山」マップ



長野県木材協同組合連合会「青壮年部会」の創設

当連合会は、県下15の木材協同組合を会員として昭和33年に改組設立されました。

時の流れの中で解散した関連団体事業者の受け皿となり、流通部会、素材生産部会、住宅部会、土木用材部会を設置してきた経緯があり、現在当連合会は、木を伐るところから住宅を建てるところまでの、幅広い事業者が構成員となっています。

これまでの間、「長野県木材青壮年団体連合会」とは協力連携の関係にありましたが、連合会組織として組合員である事業者の後継者の育成には携わってこなかったことを悔い改め、組合員の要請に従い、昨年定款の改正と規約の設定を行い、本年3月1日に会員46名で青壮年部会を創設しました。

青壮年部会は、当連合会の定款の定めに従い「会員及び組合員の自主的な経済活動を推進し、その社会的地位の向上を図る。」ことを目的とした、次代を担う会員及び組合員である事業者の後継者及び従業員で構成された組織です。

今後は、次代の事業体経営を担う人材の育成に必要な学び・交流に関する取組を、会員の主体的な参加により実践してまいります。



「セーザイゲーム」をとおして素材生産から木造住宅建てるまでを一気通貫で学ぶ会員

【長野県木材協同組合連合会】

中部森林管理局

人事異動

令和6年4月1日付

局長 次長(名古屋事務所長)	森谷 克彦
総務企画部 総務課長	井口 真輝
企画調整課長 専門官(契約適正化・債権管理)	北村 大
監査官	遠藤 歩
監査官	野田 和浩
監査官	羽生田 久男
計画保全部 保全課長	遠山 京一
治山課長	屋敷 昌司
流域管理指導官	立澤 和実
林地保全企画官	松川 淳平
森林整備部 森林整備部長	大崎 幸生
森林整備課長	村上 拓也
監査官	永瀬 庄栄
企画官(花粉発生源対策)	関 諭
企画官(間伐推進)	可知 光輝
企画官(長期安定供給)	古畑 明博
企画官(自然再生)	中村 輝雄
野生鳥獣管理指導官	降旗真紀子
北信森林管理署 署長	林 満
東信森林管理署 署長	佐野 周二
南信森林管理署 署長	滝野 勝也
木曾森林管理署 次長	古瀬 美樹
富山森林管理署 次長	小枝 幸博
飛騨森林管理署 署長	木島 伸悟
岐阜森林管理署 次長	久保 喬之
東濃森林管理署 署長	藤井 勝
愛知森林管理事務所 次長	今村 正之
愛知森林管理事務所 所長	池戸 健志
森林技術・支援センター 所長	都竹 昌和
名古屋事務所 副所長	松田 昌恵

長野県林務部(課長級以上)

人事異動

令和6年4月1日付

林務部 林務部次長	百瀬 秀樹
森林政策課 企画幹	田中 優哉
主任専門指導員	百瀬 直孝
森林づくり推進課 鳥獣対策担当課長	塚平 賢治
企画幹兼課長補佐	羽賀 淳一
企画幹兼保安林係長	井出 政次
佐久地域振興局 林務課長	西沢 彰
上田地域振興局 企画幹兼林務係長	戸上 学
諏訪地域振興局 林務課長	小島奈美子
企画幹兼治山林道係長	青木竜一郎
上伊那地域振興局 林務課長	逸見 玲子
南信州地域振興局 林務課長	木次 勲
企画幹兼普及係長	保科 健
松本地域振興局 林務課長	丸山 基久
企画幹兼普及係長	植木 信吉
北アルプス地域振興局 企画幹兼林務係長	三村 徳義
北信地域振興局 企画幹兼林務係長	神谷 一成
林業大学校 校長	中宿 恵司
林業総合センター 木材部長	毛受 誠
長野県林業公社 事務局長	宮下 博文
森林整備課長	太田 明



長野県林業職員協会 通常総会



長野県林業職員協会は、市町村や森林組合の林業に携わる職員で構成されており、研修の場を設けてスキルアップを図っています。

令和6年3月26日、長野県林業セクタービルにて長野県林業職員協会令和5年度通常総会が行われました。

長野県森林組合連合会 村松敏伸専務理事による来賓挨拶に続き、両宮会長を議長に議事が行われ、第1号議案令和5年度事業報告及び収支決算書の承認から第4号議案の役員改選まで審議の上、原案どおり承認、決定されました。

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染症法での位置づけが緩和され、8月には勉強会として、三重県の「熊野林星会」が開発をした製材会社の経営を模範的に体験できるボードゲーム「セーザイゲーム」で製材の世界について学び、9月に開催した県大会では、長野市飯綱高原を会場に林業技術競技会とJクレッジ制度について学びました。また、基本問題研究会では、茨城県ひたちなか市で11月に行われた「森林・林業・環境機械展示実演会」を役員13名で視察するなど、会員の研鑽や親睦に資する各種行事が制限なく開催することができました。

今回の役員改選により、信州上小森林組合の山下貴之新会長の下、新役員11名体制で活動してまいります。

長野県協同組合連絡会 第54回通常総会



第54回長野県協同組合連絡会通常総会が4月8日にJ A長野県ビル（長野市）にて開催されました。

総会は、長野県生活者協同組合連合会・太田栄一会長理事（連絡会会長）から挨拶が行われた後、第1号議案「令和5年度事業報告並びに収支決算の承認について」に始まり、第5号議案まで全ての議案についてそれぞれ審議のうえ、原案通り承認されました。

令和5年度は、10月に「協同組合フェスティバル」が長野市善光寺表参道セントラルスクエアで開催され、前年を上回る来場者で賑わいました。長野県が進める健康づくり県民運動「長野県ACEプロジェクト」の一環として「信州まるごと健康チャレンジ」が継続して行われたほか、協同組合アイデンティティについて考える学習会や、大規模災害時の被災者支援についてのワークショップが開催され、会員間での連携活動が活発な一年でした。

総会終了後は、長野県生活者協同組合連合会の中谷隆秀事務局長から能登半島被災地支援報告がなされ、日本協同組合連携機構の前田健喜CI・国際・研究チーム部長から「協同組合のアイデンティティに関するICAへの提言およびIYC2025について」と題し、ご講演いただきました。

7月6日（土）は国際協同組合デー



JForest 地域の森林・林業を担うプロを目指して!

森林組合初任者研修会



2024年4月22日から23日にかけて長野県林業センタービル会議室を会場に、令和6年度森林組合初任者研修会を開催しました。

本研修会では、組合職員として働くうえで必要な知識やマナーを学ぶ場として毎年開催されており、今年は8つの森林組合と県森連から15名が参加しました。

初日は長野県林務部信州の木活用課担当係長より「長野県の森林・林業を取り巻く情勢」に

ついて講演いただきました。初めて林業界に勤める方を考慮し、森林・林業の基礎知識から、日本国内の状況、長野県内の状況とクローズアップしていく構成で、主伐・再造林がなぜ求められているのかや、森林サービス産業をはじめ新たな森林・林業に対するニーズの高まりなどが紹介され、地域の核心的な林業の担い手として、森林組合に期待が寄せられていることが話されました。

つづいて、「森林組合の事業と会計についての説明がありました。『森林組合の事業』では、森林組合制度の成り立ちや組織構成、県内の状況のほか、多岐にわたる森林組合の事業の種類について学びました。また、森林組合特有の受託事業について森林整備事業における特例なども絡めて解説し、組合員のためにある事業組織であることを改めて認識する内容でした。『森林組合の会計』では、簿記・会計の目的や財務諸表を構成する「資産・負債・純資産（資本）・費用・収益」のそれぞれの性質や事業運営を行っていく中で

の資金の動き方、日々行われる取引の仕訳について解説が行われ、最後に簡単な仕訳を行う問題を演習しました。

2日目は、午前中に（一財）長野経済研究所の中島直子主任インストラクターを講師に迎え、「ビジネスマナーの基礎知識」について、挨拶の仕方か

ら、電話応対や名刺交換、訪問先での振る舞いなど参加者同士でのロールプレイを交え学びました。

午後はグループワークとして「林業を盛り上げるためには」をテーマに3つの班に分かれて議論しました。

SNSや映画、テレビなどのメディアでもっと多くの人に発信することの必要性や、林業従事者の経済的な地位向上が不可欠であるという提案がありました。最後に「森林組合職員として求められるもの」について研修し、全日程を終えました。

課題は山積する一方、森林環境税の徴収が開始されるなど注目も集めつつある林業界で、やりがいを持って地域林業を担う、森林組合職員に成長することが期待されます。



▲新卒者だけでなく他業種から就職された方も多く、様々な目線から林業について考える良い機会となった。森林組合間での交流も今後期待する声もあった。



長野県には 18の森林組合



各森林組合の事業エリアや
連絡先については、
右のQRコードから
ご覧ください



組合員総数は全県で
82,272名 ※令和4年度

森林組合にお任せください！

森林組合では組合員のみなさまに次のような事業を行っています。

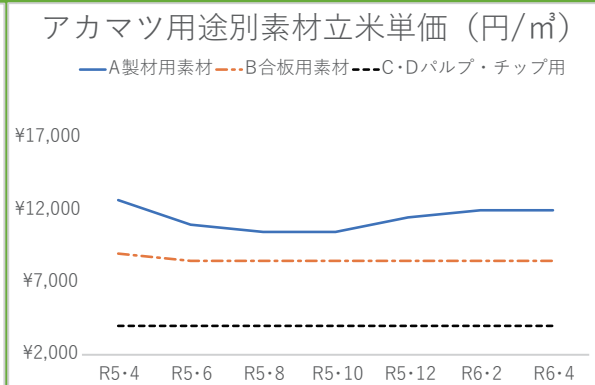
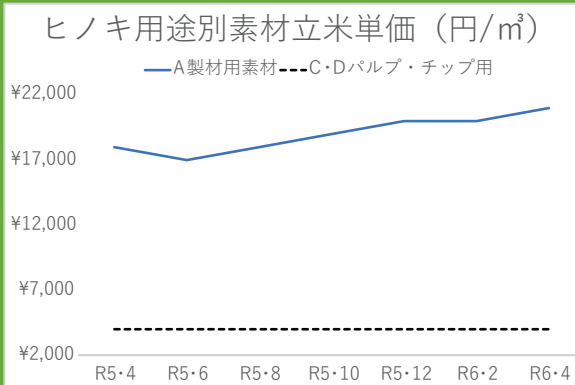
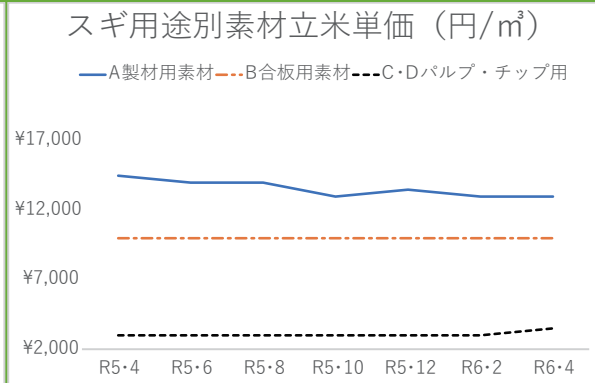
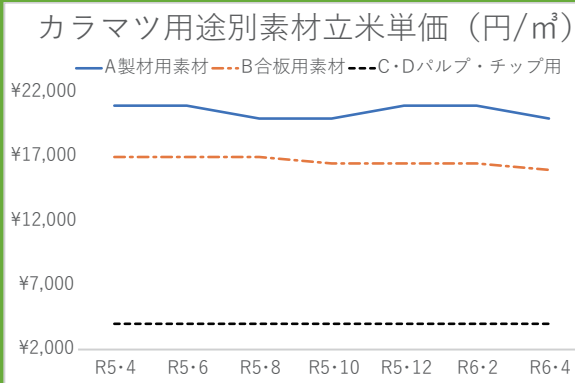


組合員の

- 森林経営に関する指導や情報提供を行う **指導事業** (Icon: Magazine)
- 林産物の生産や販売を行う **販売事業** (Icon: Logs)
- 林産物の加工・販売を行う **加工事業** (Icon: Wood blocks)
- 森林の整備や経営、病中獣害から保護を行う **森林整備事業** (Icon: Worker)
- 必要な物資やサービスを提供する

※一部組合では取り扱いが
無い事業もあります。
詳しくはお近くの森林組合
にお問い合わせください。

JForest 長野県の木材市況



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

春季優良材市

4月9日～10日に北信、中信、伊那の各木材センターで春季優良材市が開催されました。
 長野県内各地から広葉樹の良材を中心に多数出品され、活発な応札があり、高値がつく盛況な市売となりました。
 多くの優良材のご出品、並びに高値でのお買い上げいただき、誠にありがとうございました。



▲ケヤキ 2.0 m × 110 cm (北信)



▲ツガ 4.8 m × 60 cm (中信)



▲ケンポナシ 4.0 m × 56 cm (伊那)

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】
 合法木材供給事業者の認定を取得したうえで、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。
 ※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積み込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いいたします。

県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！
 最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！
 「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪



長野県森連



発行 長野の林業編集委員会
 事務局 長野市岡田町長野県林業普及センター
 (一社)長野県林業センター

電話 〇二六(二二六)五六二〇
 電話 〇二六(二二七)五〇一五

Eメール rinfukyoo@giga.ocn.ne.jp
 Eメール nagarin-center1@qa3.so-net.ne.jp